



楽聖・服部良一③

地域史研究者
三善貞司

敗戦の陰鬱さを払拭する名曲の数々
ブルースからブギへ挑戦し、傷心のシツ子を応援

昭和12年（1937）、レコード会社コロンビア専属の作曲家服部良一は、10年に一人しか出ないと言われたソプラノ歌手淡谷のり子のために、「雨のブルース」「別れのブルース」「君忘れじのブルース」等々を作曲して与え、大ヒットをとばし、のり子は一躍「ブルースの女王」と呼ばれて、歌謡界のアイドルになります。

ブルースというのは19世紀末に、アメリカのネグロイド系の人たちが作りだした歌曲で、世界的に普及していたヨーロッパ系の音楽にない独特の音階と旋律があり、人間の悲しみや苦しみを絶望的に歌った十二小節（楽譜の縦線と横線とで区分される部分）を基本にするものです。もちろん日本の歌謡界にはそれまでありませんでした。

少年時代、大阪フィルの指揮者ロ・メッテルが目をつけ、自宅に招いて血のにじむような特訓を課した良一の才能は、ブルースによって見事に花開いたのです。貧しいため優秀な成績なのに上級学校に行けず、バイトを重ねながらハーモニカを吹いて自分を慰めていた悲しみの日々が、ブルースにのって流れていきます。いや、中国に戦争をしかける軍国ニッポンが転落する暗い世相が、ブルースの大流行をもたらしたとも言えます。

続いて良一は、「蘇州夜曲^{すしゅうやまぐ}」や「湖畔の宿」といった歌謡史に残る名曲を発表します。しかし時代は戦時色が濃くなるばかりでした。

「お前の歌は暗すぎる」

「戦う意欲が失われていく。お前のは敵性音楽だ」

と政府筋から横槍が入り、会社はしばしば発売禁止を命じられます。

「ハットリ（服部）ブルースやない。ハッキン（発禁）ブルースや」

とからかわれたのは、このころの話です。

今の若い方たちには信じられないでしょうが、「湖畔の宿」については私にもこんな思い出があります。

当時私は旧制中学生で勤労動員にかりだされ、毎日軍需工場（軍事物資の製造工場）で働いていました。ある暑い夏の昼さがり、腹ペコの私たちはわずかな休憩時間にへたりこんで、軍歌を歌っていました。そのとき、なにを思ったのかひとりの級友が、突然ドラ声をはりあげて「湖畔の宿」を歌いだしたのです。あの高峰三枝子が絹糸のような声で歌った物悲しいメロディです。たちまちみんな同調して、

山の淋しい湖に
独り来たのも…

とやっている、運悪く教官が通りかかり、

「貴様たち、なにを歌っておる。敵性音楽やないか」

とどなりつけ全員整列を命じられ、激しい往復ビンタをとられました。私はメガネが吹っ
とんで壊れたおぼえがあります。

まさか良一はビンタはとられなかったでしょうが、余儀なく沈黙してしまいます。

昭和20年（1945）8月15日、戦争は日本の敗北で終わりました。戦災と極端な物資
不足で社会は大混乱、秩序は崩壊し価値観は百八十度変わり、荒廃した無惨な社会にあっ
て人々は激しい飢餓に苦しみます。そんななかで良一は、軍部にいじめられたうつつぶんを
晴らすように、次々にヒット曲をとばします。

「夜のプラットホーム」「銀座カンカン娘」「青い山脈」等の名曲が焼跡に流れ、国民
たちを元気づけていくのです。しかもどの曲もマンネリではない。ブルースはとくに卒
業し、新しいメロディにチャレンジします。とりわけ日本人の歌謡曲のイメージを一変さ
せたのが、笠置シズ子を用いた「東京ブギ」でした。

シズ子は本名亀井静子。大正3年（1914）香川県に生まれました。祖父は漢学者の
家柄です。幼いころから芸事が大好きで、小学校を卒業するや大阪に来てバレエや演劇を
学び、昭和2年（1927）13歳で大阪松竹歌劇団（OSK）の舞台にあがり、三笠静子の
芸名で人気を得ます。やがてトップスターになります。が戦局がきびしくなり、お前の踊り
はセクシーすぎると警察ににらまれ落ちこんでいたころ、吉本興業の社長吉本せいの自慢
の息子で当時早稲田大学学生だった吉本頼右よしもとえいすけと愛しい、妊娠します。

どうしたわけか物わりのいいせいも、2人の結婚だけは絶対に許しませんでした。誰
がなんと言おうと承知せず、静子は生まれた女の子をエイ子と名づけ、泣きながら抱いて
去っていきます。

そんな彼女に同情したのが良一です。良一もかつてOSKのために作曲したことが何度
もあり、静子の歌唱力にもほれこんでいます。

あの静子が幼児をかかえて難儀していると聞いた良一は、パンチのきいた彼女にふさわし
い曲を作ろうとブギウギに目をつけます。これは四分の四拍子で書かれた曲の一小節を、
八拍にとって演奏するもので、アメリカでは爆発的に流行していましたが、敗戦でうちひ
しがれた日本では、無縁な音楽でした。

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株) ファッションビジネス・御堂筋新聞